

福祉ジャーナリスト・町永俊雄さんのフェイスブックから：

精神科医療の姿は、オープンダイアログのように「物語」の中に浮かび上がる。2017年9月3日に川崎市教育文化会館で「統合失調症を生きる」のフォーラムが開かれた。そこで語られた一つの物語。

一人の型破りな精神科医が登壇した。

陽に焼け、引き締まった体躯に快活な笑いと開けっぴろげな語り口を持つ彼は、横浜の日吉病院の理事長である。

熊田貴之さん、彼のモットーは「薬物と入院への依存からの脱却」だ。

ある時、入院が二年半を超え、保護室に入れられていた30歳の統合失調症の男性に会った時、熊田医師はつかつかと歩み寄りいきなりその男性を抱きしめると、「君はここにいる人じゃない」と耳元に語った。

その男性は、堀口雅紀さん、中学の頃から異変を感じながら、適切な医療につながることができず、気がつく入院生活を送っていた。保護室で幻聴と妄想の中、床を踏み鳴らしドアを蹴り続けていた時に、熊田医師に出会った。

「君はここにいる人ではない」そう言われても「え？」、何を言われたのかわからなかったが、その一言が彼に自身の人生を歩ませることになった。

熊田医師のやったことは迅速周到だった。

保護室から外来通院とし、精神保健福祉士などのチームとともに、彼の人生の奪回作戦というべき取り組みが始まる。

「君の人生でやりたいことはなんだろう」

絶えず問いかけ、そこから、今取り組むべきプログラムを人生の工程表として堀口さんとともに作り上げた。

現在、堀口さんは、大手のスーパーで働いている。次の人生の目標は、ちょっと照れて、結婚だという。

熊田医師は語る。「長期の入院は人格を破り人生を奪う。精神科医療は、その患者その人の人生を築く力になるべきだろう」

フォーラムの最後。

堀口さんは聴衆に向かって現在の自分を語った。

「家にいる頃、幻聴や妄想の中、身を横たえていたら父親がじっとのぞき込んでいた。切れ切れの記憶ながら、『恨んじやないよ』と言った」



彼はここで沈黙し、言葉を選ぶようにしてこう語り継いだ。「今も、誰も恨んではない。今の自分は誰も恨むことなく、暮らしている」会場はしんと静まり返った。ややあって、湧き上がった拍手が空白を埋めた。

★—————*★*—————*★*—————*★*—————*★*

町永俊雄さんのメールから

ゆきさまへ

熊田医師と堀口さんとのもうひとつの物語。

堀口さんが保護室にいた時、その時も幻聴か何かで自分が自分でわからなくなっていた。

そこに熊田医師が来た。堀口さん、いきなり熊田医師の白衣の胸ぐらを掴んでねじり上げた。熊田医師、そのまま。

ややあって穏やかに言った。

「ほらね、何も起こらなかつただろう」

堀口さん、きょとんとした。なんで突っかかって行ったのだろう。

その一言でスッと鎮まった。

「熊田さんは、そんな不思議な一言を患者に絶えず呼びかける」と、これは堀口さんの言。

熊田医師は、患者一人ひとりに「工程表」を作る。

堀口さんの場合もそうだった。

「一緒に君の人生を考えよう」、と言われてもなあ、と堀口さん。

「君のやりたいことはなんだ?」、といわれてもなあ。

そもそも人生もやりたいことも奪ったのは、入院の暮らしなのだ。

堀口さんは定かな記憶はないが、その時何も思いつかず、何やら途方もないことを言っただけらしい。でもそれを「イイネ、イイネ」と熊田さんはニコニコ、あっさり受け入れ、「さて」と両手を前に組んで乗り出し、一枚の紙を取り出し、

「それでは」と何やら書き始めた。

いつのまにか、隣には精神保健福祉士の美しい女性がペンを持って座っている。そのためには働かなければならない。なにしたい？ 書き込む。

そのためにはハローワークだな。書き込む。

就労訓練というプログラムがある。やってみるか。得意なことはなんだろう。

そんな風に堀口さんのやりたいこととできることを話し合いながら、紙に細々と書き込んでいく。堀口さんにとっても初めての体験。病院というのはいつも、腕を掴まれ指示され抑え込まれるところだったのに。

書きあげたのは、ステップの図形の「工程表」だ。さて、ここを踏み上がっていくように暮らそう、ということになった。三ヶ月毎に次の自分の人生のステージが書き込まれている。自分の身にこんなことが起こるなんて、まだその時は半信半疑だった。自分にこれからの自分という未来がある、なんて。

それからは病院のチームが、堀口さんの歩みに寄り添った。太り過ぎだと、栄養士が厳しく指導した。それが嬉しかった。誰かに心配してもらえる自分がいるのだ。

9ヶ月経って、堀口さんは今、大井町の成城石井で働いている。早番である。遅れたら搬入ができず店が開かない。

「責任重大」、そう言いながら早朝の街角を急ぐ。次の工程表は「彼女」である。